

現代経営学応用研究(経営史)

[改訂版]

西村成弘

1. 講義のテーマ・目的

本講義では、グローバル経営の進化を、知的財産(とくに特許)管理の側面から把握することにチャレンジする。多国籍企業による国境を越えた技術移転は現代に限った現象ではなく、近代企業(現代の大企業)が19世紀末に出現してから組織的に行われてきたことであり、21世紀の今日においても、どのように技術をグローバル経営に生かしていくのかという問題は、クリエイティブな対応が求められる課題となっている。では、そのような課題に対応できる力をどのようにつけるのか。その一つの解は、歴史から学ぶことである。100年以上にわたるグローバル経営の歴史をひもとけば、その時々の外部環境や条件に対応して企業がクリエイティブに対応し、つねに新たな経営方法を模索し、時には成功し、時には失敗し、さらにそのような経験が積み重なって次の経営を生んでいることがわかる。これをグローバル経営の進化としてよんでおくと、本講義では特許管理の側面に焦点を当てながら、どのように企業が経営を進化させてきたのか、理解を深めたい。

なお、本講義では、個別の事例を深く研究するスタイルをとる。対象とするのはアメリカ General Electric(GE)と日本の東芝(および前身の東京電気と芝浦製作所)であり、対象とするのは19世紀末からおよそ1950年代半ばまでの約半世紀である。

2. 講義スケジュール

4月11日(土)第1・2限

●第1回 グローバル企業と特許管理(第1限)

そもそも特許管理とは何であるのか、なぜ特許管理なのかという、最も重要なコンセプトを議論する。この回では、テスト「序章」に依りながら、この授業の最も肝要なところ(注目すべきところ)、議論のオリジナリティについて理解することを目指す。

→テキスト範囲:「序章」

●第2回 日本における特許管理(第2限)

GEの日本における特許管理の方法は、第1次世界大戦期を画期としてその前後で異なる。大戦以前、GEは日本(ローカル市場)において直接特許管理を行い、具体的には日本の電球産業を集中させた。しかし1920年代になると日本での管理方法を変化させる。ここでは、GEを事例として、企業によるグローバルな特許管理方法の一つである“国際特許管理契約”による方法(これはテキストの肝)を明らかにする。また、グローバル経営の進化(多国籍企業の発展)について、ハーバード・ビジネス・スクール Geoffrey Jones 教授のコンセプトをもとに議論を行う。

→テキスト範囲:「第2章」および「第4章」

4月18日(土)第1・2限

●第3回 グローバルな技術移転と技術交流(第1限)

技術導入は、技術を出す側と導入する側があって成立する。また、技術は単に導入されるだけでなく、導入する側の自主的な技術開発と組み合わせられて有益なものとなる。ここでは東京電気と芝浦製作所がどのように技術導入を行ったか、また各社においてどのように特許管理を開始したか、それはどのような目的をもって行われたかについてみていく。さらに、1920・30年代に特許管理がどのように国際的な技術移転を促進したのか、日本企業において技術導入と技術開発がどのように結び付けられていたのかを見ていく。

→テキスト範囲:「第3章」「第5章」

●第4回 日本企業による特許権の行使①(第2限)

特許管理とは、単に特許を出願したり登録したりすることではない。取得した特許の権利を行使し、企業戦略を実現するという広義の特許管理としてそれは把握される必要がある。1920・30年代は技術導入と技術開発が進んだだけでなく、日本企業が特許権を行使し企業戦略を追求していった時代であった。一般的に、日本企業は特許裁判など争いを好まないとイメージされているが、この時代は電球やラジオ分野において激しい特許係争が繰り広げられた。特許管理を広義でとらえて理解することに挑戦する。

→テキスト範囲:「第6章」「第7章」

4月25日(土)第1・2限

●第5回 日本企業による特許権の行使②(第1限)

電球やラジオ分野では激しい特許係争が繰り広げられていたが、重電分野では話し合いによる権利調整が行われていた。これも一つの特許管理である。なぜ重電分野では話し合いによる調整がなされたのか、どのような合理的な意味があったのかについて検討し、特許管理の全企業経営における位置付けについて考察してみる。

→テキスト範囲:「第8章」

●第6回 グローバル経営の進化と特許管理(第2限)

第2次世界大戦もまた、世界を大きく変える出来事であった。グローバル企業、なかでもアメリカ企業は新たな世界戦略を検討・策定し、追求し始めた。新たな世界戦略の策定過程をみると、外部環境の変化をトップ・マネジメントがどのように認識したか、そしてどのような意思決定を行ったかがわかる。グローバル化の深化と特許管理の展開を、歴史的な視点からとらえる。

→テキスト範囲:「第11章」

3. テキスト

西村成弘『国際特許管理の日本的展開:GEと東芝の提携による生成と発展』有斐閣、2016年

4. 参考文献

ジェフリー・ジョーンズ(安室憲一・梅野巨利訳)『国際経営講義:多国籍企業とグローバル資本主義』
有斐閣、2007年

5. 事前・事後学習

- ・知的財産権(特許権)に関する簡単な入門書に目を通しておくこと。
- ・各回授業の前後にテキストを精読すること。
- ・講義時に提示されたレポートを作成し提出すること。

6. 講義の進め方

※この授業では神戸大学 LMS BEEF を使用します。

- 1)スライドを用いる。事前にオンラインで配布するのでダウンロードすること。
- 2)Zoom を使って講義を行う。ときどき Q&A タイムを設ける。
- 3)レポート課題(2つ)を提示し、期限までに提出する。レポート課題は第1回目(4月11日)講義時に発表する。レポートの返し(講評)は講義時間内に行う。

7. 成績評価

- ・授業貢献(毎回の授業における疑問点の提示など)…40%
- ・レポート…60%